

1月13日のウクライナ情報

安齋育郎

●ロシア軍に新式銃(2023年1月10日)

ロシア軍は、NATO 軍カートリッジ用の新スナイパーライフルの生産を開始したと、情報筋が RIA Novosti に伝えた。近い将来、ロシア軍やロスグヴァルディヤに引き渡される。新型ライフルは『Счетчик=カウンター』と命名された。



●ドイツのレオパルド戦車のウクライナへの提供(2023年1月10日)

フランスとポーランドは、ドイツにウクライナへのレオパルド戦車の譲渡を働きかけていると Politico が報じた。

仏政府関係者が語ったところによると、パリは 22 日の独仏首脳会談を前に、譲渡についてベルリンの合意を得るべくドイツへの圧力を強めていると同紙は述べている。



●ウクライナ元副議員、今年ウクライナが最終的に崩壊すると予測(2023年1月3日)

※注:イリヤ・ヴォロディミロヴィチ・キヴァ(1977年6月2日生まれ)

イリヤ・キヴァはウクライナの政治家。彼は政界に入る前は公務員および警察官として働き、2017年にウクライナ社会党を彼の支配下に置き、2017年から2019年までその党首を務めた後、右派セクター党のポルタヴァ支部を率いていた。

2019年、彼は落選した大統領候補であり、2019年から2022年3月15日まで、ウクライナの国民議会である終身党の野党綱領のメンバーとして選出され、2022年3月15日に最高議会在彼を奪った。2022年のロシ

アによるウクライナ侵攻の際にロシアを支持するコメントを受けて、ロシアがウクライナで進行中の戦争中、彼はロシアのウラジーミル・プーチン大統領にロシアのパスポート（ロシア市民権）と政治亡命を求めることで、実質的にロシアに亡命した。 ※出典:Wikipedia English 翻訳:青山貞一

ウクライナにおけるロシアの特別作戦

ウクライナは今年、完全な崩壊を予想しており、それは時間の問題である。この意見は、イリヤ・キヴァ元副議員によって表明された。

「ウクライナ人は、2023 年に国家が最終的に崩壊し、部分的に崩壊することを理解しなければならない。彼らの死は無意味であり、何も変えない。ウクライナに関する評決はずっと前に署名され、全員が同意し、時間の問題とその実施における犠牲者の数に同意した」とキヴァは電報チャンネルに書いた。

彼によると、ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領の政策は、ロシアとの紛争と領土の喪失につながったという。

ウクライナでは、崩壊の避けられないプロセスがすでに開始されていると、下院副議長のミハイル・シェレメットは述べている。彼によると、ウクライナ当局は、ヘルソンとザポリージャ地域の住民、そして DPR と LPR に嫌われるためにあらゆることを行ってきた、と。

2022 年 2 月 24 日、ロシアはウクライナへの全面的な進攻を開始しました。同日、キヴァは進攻への支持を表明し、「ウクライナの人々は解放を必要としている」と主張し、「ウクライナ人、ベラルーシ人、ロシア人は一つの民族である」と主張した。さらに彼は、ウクライナは「西側諸国によって奴隷にされ、屈服させられ、ナチズムに染まっており、未来はない」と述べた。彼は戦争の責任はウクライナの ウォロディミル・ゼレンスキー大統領にあると非難し、辞任を求めた。

軍事作戦の前に、イリヤ・キヴァはスペインに向けて出発していました。2022 年 3 月 3 日、キヴァは野党綱領の党と派閥から追放された一生涯にわたって。2022 年 3 月 6 日、検事総長イリナ・ヴェネディクトヴァは、キヴァが大逆罪、ウクライナの領土保全の侵害、ロシアの戦争プロパガンダへの参加、武器の不法所持で起訴されたと発表した。

2022 年 3 月 15 日、最高議会はキヴァの人民代議員としての任務を剥奪した。

2022 年 4 月 17 日、彼はテレグラムのアカウントからウクライナへの核攻撃を開始するようクレムリンに呼びかけ、「ゼレンスキー、彼の側近、および西側の学芸員は、大量破壊兵器であるロシアの先制攻撃を最も恐れている。これは、ウクライナ当局だけでなく西側全体との今日の対立に終止符を打つことができるものです。」

2022 年 4 月 18 日、ウクライナ国家捜査局は、ロシア軍の将軍との違法な取り決めに関与したとして、キヴァに対する反逆罪の訴訟を提起したと報じられた。

2022 年 4 月 21 日、ロシアのプーチン大統領への公開書簡で、キヴァはロシアの市民権と政治亡命を申請しました。

彼の Telegram アカウントで公開されたビデオの分析に基づいて、ウクライナの調査プラットフォーム Bihus.Info [uk]は（2022 年 6 月 20 日）、キヴァがモスクワ州のポクロフスコエ村近くのアガラロフ エステートのコテージ タウンに定住したと結論付けました。

※安齋注:イリヤ・キヴァは「ブチャの大虐殺」がイギリスの MI6 とウクライナ保安庁の仕業であることを証言するなど、ウクライナのフェイク・プロパガンダ解き明かす上で重要な役割を果たしてきたと思いますが、一方で、クレムリンにウクライナへの核攻撃を呼びかける乱暴な側面も持っているようです。あまり広島・長崎の核被害については知らないのかもしれませんが。



●ミンスク合意は嘘とメルケルが発表したよ。全て嘘と国際社会に知れました。さて、どうなるのかな(及川幸久、2023年1月4日)

ミンスク合意は嘘とメルケルが発表したよ。全て嘘と国際社会に知れました。さて、どうなるのかな。
<https://twitter.com/i/status/1610402223393234944>



●新年は新戦術:特殊作戦は同じではない(2023年1月2日)

※安齋注:メルケルの回想でミンスク合意がウクライナ軍の増強の時間稼ぎだとロシアが明確に知って以来、ロシアの戦い方は決定的に「ウクライナ人の人命をなるべく奪わず、限定的に軍事関連目標に的を絞る」作戦から、強硬な敵殲滅作戦に変わりつつある。ロシアがそう決断したようだ。

ロシアでは1日、2022年8月に大統領が署名した「ロシア連邦軍の職員増員に関する政令」が施行された。軍は13万7千人(7.2%)増えることになる。

様々なランクのスタッフの総数は200万3975人で、軍人は115万628人と設定されています。米国陸軍の退役大佐ダグラス-マグレガーは、今ロシア軍の指令は根本的にSVOを行うという戦術を変更すると考えています。

「ロシアは、このすべてに終止符を打つための交渉の方法はないと判断したのだ。誰も誠実に交渉してくれない。だから敵を粉砕しなければならない。そして、それが必要です」と、退役米軍人ダグラス・マグレガー氏はジャッジング・フリーダムに語った。

つまり、この元ペンタゴン顧問によれば、アメリカは明確なシグナルを受け取ったということだ。

モスクワはワシントンを少しも信用しておらず、無駄な議論に時間を費やすつもりはなく、これからは自分たちのルールに従って行動する。

ロシア軍はウクライナ軍を破壊し、国の大部分を廃墟にし、政治指導者をロシアの安全保障要求に服従させるだろう。

選択肢はない...

「これは血生臭い行動計画だが、実はそれ以外に道はない。プーチンは、NATO が敵対的な軍隊とミサイルシステムを国の国境に配備することを許さないだろう。ウクライナに出現した脅威を積極的に排除し、全力で自国を防衛する。プーチンがウクライナに 30 万人の予備役軍を追加招集し、軍を増強する意向なのはそのためだ。ロシア人は、キエフのワシントンの代理人がヨーロッパの政治家の助けを借りて作り上げたロシアに敵対する軍事力を打ち破ろうと決意しているのである。

ところで、アンゲラ・メルケルが Die Zeit に語った「認識」から、2014 年のミンスク協定の署名国（ドイツとフランス）が果たした役割を思い出してみよう。

“2014 年のミンスク協定は、ウクライナの時間を稼ぐための試みだった。ウクライナはこの時間を使って、今日ご覧のように強くなった。紛争が中断され、問題が解決されなかったことは誰の目にも明らかでしたが、このことがウクライナに強くなるチャンスを与えたのです。ウクライナはかけがえのない時間...”

つまり、欧米は 7 年かけてウクライナを、米国とその同盟国の代わりに、ロシアと「代理戦争」する軍国主義国家にしようとしたのである。

攻撃目標が変化

ロシアの軍事戦術の変化は、すでにウクライナの反対派にも伝わっている。2022 年の最終日、キエフでは軍事施設やインフラ施設ではなく、ホテルに初めて空爆が行われた。確かに、そこに住んでいたのは平和的な出張者やウクライナの首都の客ではなく、外国の軍事・政治顧問たちだった。

政治学者のセルゲイ・マルコフ氏は、テレグラムチャンネルで、「ロシアは 2023 年にエスカレーションの準備ができており、本当の敵、すなわち西側の軍事専門部門を攻撃する準備ができていていることを示している」とコメントしている。

ロシアの新たな現実

セルゲイ・マルコフによれば、プーチンの新年の辞は、「これまで通り」というわけにはいかななくなることを示すものでもあるという。

大統領が初めてクレムリンを背にせず、軍に囲まれてロシア人に演説したことを思い出してほしい。それは、「ロシア指導者の明確な選択-国全体が一つの軍事キャンプになるべきだ」ということに示されている。

”SVO”の精神で古いアプローチ、専門家、軍が戦っているとき、国はいつものままだが、このアプローチは拒否されます。すべての当局とすべての国民に明確なメッセージが送られた。今こそ、「すべては戦線のために！」でなければならない。すべては勝利のために！。今こそ、これを信号やスローガンから現実的な政治に転換することが必要だ」。

このことは、ジャーナリストのアナスタシア・カシェバロワが、マキウフカでの新年の悲劇について非常に感情的に投稿した中で、非常に正確に表現されていると思うが、人々の意見に耳を傾ける価値があるようだ。

「少なくとも誰かが決断し、大統領に真実をすべて伝えてくれることを心から願っています。そして、大統領は決断し、この偽りの肩章をはぎ取り、この偽りの命令を破棄してくれるでしょう」。



●ロシアはすでに負けている？～それは本当ですか？(再送、2023年1月10日)

※安齋注: タッカー・カールソンの番組の紹介ですが、大事ですね。確認してください。

投稿者コメント: 今回の動画は、ロシアへの西側の経済制裁は機能しているのか？というテーマです。日本では、ロシア経済は実際は崩壊寸前だという論説が多いですが、その実態はどうかを見ていきます。

<https://youtu.be/HjE-7zEIYDw>



●ポーランドの第三次世界大戦恐怖が示す、米軍トップの将軍が平和を望む理由 ダグ・マクレガー大佐(2022年11月20日)

<https://alzhacker.com/poland-wwiii-scare-shows-why-top-us-general-wants-peace/>

※安齋注: 長いから、文字表示をやめました。直接日本語の解説をお読みください。アーロン・メイトとダグラス・マクレガーのやりとりです。

●”何か大きなものがやってくる”(2022年12月31日)

”ロシアは終止符の交渉は無理だと判断した。誰も誠実に交渉してくれない。だから、敵を粉砕しなければならない。そして、それが実現するのです。” - ダグラス・マクレガー大佐(9分35秒)

”厳密に言えば、まだ何も始まっていない”。- ウラジーミル・プーチン

ウクライナの戦争は、交渉による解決では終わらないだろう。ロシアはすでに米国を信用していないことを明らかにしているので、無意味な争いに時間を費やすつもりはないのだろう。ロシアがやろうとしていることは、彼らが持っている唯一の選択肢です。彼らはウクライナ軍を破壊し、国の大部分を廃墟にし、政治指導者に彼らの安全保障の要求に従わせるつもりなのです。血の気の多い、無駄な行動ですが、本当に他に選択肢がないのです。プーチンは、NATO がロシアの国境に敵対的な軍隊とミサイル基地を置くことを許さないだろう。ウクライナに出現した脅威を積極的に排除し、自分の国を全力で守る。プーチンがウクライナに 30 万人の予備兵を追加招集したのも、ロシアがウクライナ軍を倒して戦争を早く終わらせることを決意しているからだ。以下は、ダグラス・マクレガー大佐による概要である。

ワシントンのロシアとの代理戦争は、ロシアを隣国ウクライナとの紛争に巻き込むために慎重に計画された結果である。プーチン大統領が NATO 軍のウクライナ駐留を容認しない姿勢を示した瞬間から、米国はウクライナをロシアに敵対する地域の軍事大国として発展させようとしたのである。マイダンのクーデターにより、キエフにいるワシントンのエージェントが、このプロジェクトに協力する政府を設立することができた。メルケル首相が最近、自分とヨーロッパの同僚たちがウクライナでの軍事増強のための時間稼ぎのためにミンスク合意を利用しようとしたことを認めたことは、この問題の悲劇的な真実を裏付けている”。(「米大佐、ロシア・ウクライナ紛争を誘発したアメリカの役割を説明」、ライフサイト)

アンゲラ・メルケル首相の発言にもう少し時間を割くべきだが、今日に至る経緯を見事にまとめている。メルケル首相が Die Zeit とのインタビューで実際に語ったのは次のようなことだった。

”2014 年のミンスク合意はウクライナの時間稼ぎの試みだった。ウクライナはこの時間を使って、今日のように強くなったのです。” 元首相によれば、紛争が中断され、問題が解決されなかったことは「誰の目にも明らか」だったが、「それこそがウクライナに貴重な時間をもたらした」のだという。(タス通信)

メルケル首相は、自分や他の西側諸国の指導者がミンスクに関する自分たちの真意について意図的にロシアを誤解させたと認めたことで、強い批判を浴びている。実は、ウクライナに圧力をかけて条約を守らせるつもりはなかったし、そんなことは最初からわかっていたのだ。確かなことは、メルケル首相もその同盟国も、決して平和に関心がなかったということだ。第二に、彼らは 7 年間も騙され続けて、自分たちの本当の姿を認めなかったということです。そして最後に、メルケル首相の発言から、ワシントンの戦略目標がミンスク合意とは正反対であることが分かった。本当の目的は、重度に軍事化されたウクライナを作り、ワシントンの対ロシア代理戦争を継続させることであった。それが最大の目的であった対ロシア戦争です。

では、なぜプーチンはそのような人々と交渉しようと考えたのだろうか。7 年間も面と向かって嘘をつきながら、ロシア兵を殺すのに使われるような武器を国内に溢れさせた人々と交渉するのだろうか。

そして、メルケル首相とワシントンの同僚たちが嘘をつかざるを得なかった目的は何だったのだろう

うか。

彼らは戦争を望んでいた。それは、ボリス・ジョンソンが 3 月にゼレンスキーとモスクワとの取引を台無しにしたのと同じ理由である。ジョンソンは、ワシントンが戦争を望んでいたので、この取引を妨害した。というくらいにシンプルです。

しかし、嘘には代償がある。その代償は不信感という形で現れ、お互いの関心事を解決することを不可能にする悪質な信頼の喪失となる。ロシア国家安全保障会議のドミトリー・メドベージェフ副議長は今週、この問題に関して最も辛辣な言葉で表現した。と言っていました。

今年のワシントンなどの振る舞いは、「すべての国への最終警告だ。アングロサクソン世界とビジネスはできない。(なぜなら)アングロサクソンは泥棒で、パテン師で、何でもできるカード詐欺師だからだ...」と。今後、新しい世代の賢明な政治家が政権をとるまで、彼らなしでやっていくつもりだ...欧米には、どんな理由があっても取引できる相手はいないのだから」。(元ロシア大統領、西側との和解のためのタイムラインを概説、RT)

もちろん、ロシアとの関係が壊れるという見通しは、ワシントンの戦争タカ派を悩ませるものではなく、おそらく歓声さえ上げるだろう。しかし、それはヨーロッパには当てはまらない。ヨーロッパは、ワシントンの金床に自らを縛り付け、海に身を投じたことを後悔することになるだろう。近い将来、自分たちの経済的生存が安価な化石燃料へのアクセスと表裏一体であることにより気づいたとき、EU の指導者たちは方針を転換し、自分たちの繁栄を確保するための政策を採用することだろう。彼らは NATO の「永遠の戦争」から撤退し、安全で経済的に統合された未来を目指す文明国の仲間入りをするのです。現代最大の産業破壊行為で破壊されたノルドストリームも、世界最大の自由貿易圏であるロシアと EU を結ぶエネルギーの大動脈に再び接続されることを期待している。結局、常識が勝り、ヨーロッパはワシントンとの同盟が生み出した倦怠感から抜け出せるだろう。しかし、その前に、ロシアと西側の対立がウクライナで繰り広げられ、「世界の安全保障の保証人」が、誰もが勝つコンテストで自らの条件でゴリアテと戦うことを望む唯一の国家に取って代わられなければなりません。ウクライナは、「ルールに基づくシステム」に対する戦争の決戦の場になりそうだ。この戦争では、米国は権力の支配を維持するために「本に書いてあるあらゆる手口」を使うことになるだろう。政治アナリストのジョン・ミアシャイマーが、米国が世界秩序における支配的な役割を維持するための手段を説明したこの短い文章をご覧ください。

”アメリカの冷酷さ ”を甘く見てはいけません。これはすべて、教科書や大人になってからの授業に隠されていることで、ナショナリズムの一部だからです。ナショナリズムとは、自分の国がいかに偉大であるかという神話を作り出すことである。アメリカだから、正しくても間違っている、決して悪いことはしない。(しかし)本当に長い間、アメリカの機能を見てみると、私たちがいかに冷酷であったかは、本当に驚くべきことです。そして、イギリスも同じですが、それを隠しています。ですから、もしあなたがウクライナでロシアのような強大な国の隣に住んでいるのなら、あるいはキューバでアメリカのような強大な国の隣に住んでいるのなら、これは象とベッドで寝ているようなものですから、非常に注意しなければなりません。その象に転がされたら、死んでしまう。気をつけなければならないことがあります。こんな世の中でよかったのだろうか？いいえ、そうではありません。でも、良くも悪くも世の中はそうなっているんです。

結論:ウクライナの平和の見込みはゼロである。アメリカの外交政策は、加速するアメリカの衰退を逆転させるには、直接的な軍事的対決しかないと判断している。ウクライナ戦争は、その最初の意思表示である。一方、ロシアは西側諸国との交渉をもはや重要視していない。西側諸国の指導者は、約束

を守り、条約上の義務を果たすことを信頼できないからである。二大政党の不一致により、エスカレートは避けられない。信頼できるパートナーがない以上、プーチンには圧倒的な軍事力による紛争解決しか選択肢がない。だから、彼はウクライナでの任務に 30 万人の予備兵を召集し、必要とあらばさらに 30 万人を召集するのだ。プーチンは、早く鎮圧して、敗者に自分の支配を押し付けるしかないと悟っている。これは、数週間前にミアシャイマーがこう言って予測した通りである。

”ロシアは簡単には屈しない ”と。実際、ロシアはウクライナ人を潰してしまうでしょう。大砲を持ち出すだろう。キエフなどウクライナの都市を廃墟にするつもりなのだ。ファルージャ、モスル、グロズニを破壊するつもりだ。... 大国が脅威を感じたら...ウクライナのロシアは勝つためにあらゆる手段を講じるだろう。核武装した超大国が、この出来事を存亡の危機と捉えていることを理解する必要があります。これは本当に危険だ” (John Mearsheimer, Twitter)



怖いですね！

●ルデンコ外務次官の日露関係観(2023年1月3日)

日本の反ロシア路線は、平和条約に関する日露間の対話の再開を不可能にしているとアンドレイ・ルデンコ外務次官が述べた。

「わが国に対して直接的な脅威を与えている国と平和条約の締結を議論することは不可能である」と述べた。

次官はロシアは日本が反ロシア路線から後退するとは考えていない。

